Vol.47



だより

一 つながれ ひろがれ-

編集環境パートナーシップちば代表加藤賢三 野務局千葉市中央区中央港1-11-1 (財)千葉県環境が回環境技術部 環境活動推進チム 電話 043 - 246-2180

E 品 043 - 246-2160 FAX 043 - 246-6969

「協働の環づくり」

千葉県環境生活部環境政策課長 森 茂

環境パートナーシップちばの会員の皆様には、日 頃から環境学習、印旛沼の水質浄化、地球温暖化防 止、資源循環型社会づくり、里山の保全など本当に 幅広い分野で、地域からの環境保全活動の推進に御 努力、御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

最近の環境問題では、自動車の走行に伴う大気汚染、生活排水による水質汚濁、廃棄物問題などの都市・生活型公害、地球温暖化問題など私たちの日常生活の利便性の向上とウラハラの関係にあるものが増加しています。

このような環境問題の解決には、県民一人ひとりがこれを自らの問題として捉え、ライフスタイルを見直すことにより大量生産・大量消費・大量廃棄という使い捨て社会から、すべての資源を有効に活かす循環型社会へ変革していくこと、また、こうした変革の流れを県民全体の大きなうねりとなるように広げ、継続していくことが重要です。

そのためには、皆様と行政や企業などのさまざまな主体が、情報交換や交流を行っていくことはもとより、それぞれの主体の利点(得意ワザ)を活かしながら環境保全活動や環境学習などに協働して取り組んでいくことが不可欠です。

現在、環境パートナーシップちばの会員の皆様に は、県の環境学習アドバイザーや、エコマインド養



成講座の講師として御協力いただいています。

さらに、環境シンポジウム千葉会議やエコメッセ ちばでも、行政、企業等と協働し、環境保全活動に 力を入れていただいております。

今後とも、複雑かつ多様化する千葉県の環境問題に的確に対処していくため、皆様との密接な連携を図り、「環境づくり日本一」の千葉県を目指していきたいと考えておりますので、従来にもまして御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

環境パートナーシップちばの御発展と会員の皆 様の御健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさ せていただきます。

環パちば10周年に寄せて

御宿町アドバイザー 永島 輝代

もう10年たちましたか、早いものですネ。つなぎましょう。

千葉環境シンポジゥムの第一回が開催された時、ただ話し合いだけではもったいないよ、ネットゥークしてアクションを繋ぎましょうよ!! と、各団体や個人に呼びかけて行政、企業にも仲間入りをしてもらい、参加者がスクラムを組んでゆこう! と組織化されたのが「環境パートナーシップちば」です。そして、このときのメンバーが主力になりパワーを発揮してシンポジゥムやエコメッセの実行委員会また他の祭りにも市民として核になり活動して来

ていました。

千葉市・船橋市などにて開催される環パの諸会議 には、スタッフの一人として遠い道程を良く通いま した。

2002年に病気の再発に伴い一線を退かざるを得ませんでしたが、常に夫と共に活動した日々を懐かしく思っています。

目下、体調の許す限り、地域に限って、細々と活動を継続しています。環境ボランティアは、生涯の ものと考えていますから・・・・・・

さて環パちばも10年たつとマンネリ化してい

るのではないかと、遠く在りながら心配しています。 出発時とはメンバーも考え方も変っているだろう し大胆に言わせてもらえば、シンポジゥムを軸に地 球温暖化千葉会議、ゴミゼロネット、里山グループ、 環境再生等それぞれに力のついてきた専門集団が 誕生して活動展開をしてきているので、10年を一 区切りとして環パちばの役割も新らたな方向への 展開を試みることも、冷静な持続に連がりはしない かと考えたりしています。

遠く離れ、体の不自由さも手伝って勝手なことを 申し上げますが、離れていると案外見える部分もあ るのかもしれません・・・。

環境シンポジュウム千葉会議 2005 における第 1 分科会 (地球温暖化問題分科会)の活動

青木 清

2月に京都議定書が発効され緊急に対策が望まれているところから、シンポジウム千葉会議全体では地球温暖化防止が取り上げられ、テーマも「もう待てない ストップ温暖化~千葉からアクションを~」とされました。

そこで、9月10日に千葉大学で開催された分科会 では、議論しているだけでなく、自分達がやろうと いうことで、テーマを「行動を! ひとりひとりが エコライフ」といたしました。そしてこの分科会を 自分たちが主役となって今後に役立てるための知 見を得る場として位置づけ、最初に気候ネットワー クの平田理事に特別講演をお願いして新しい総括 的情報の提供を頂き、続いて行政、企業、市民およ び高等学校という広い分野から事例発表をいただ きました。この後、グループ討議では事例発表者も 加わって、1グループを 10~12 人で無作為に編成 し、話題を限定せず、事前にポストイットに関心事 項を記入し、張り出すことによって、全員が自由に 発言できるようにしました。討議を通して、今後に 役立つ具体的な方策が多く出されました。全体で 106 件の提案や提言などをまとめると「エコライフ





に対する提案、提言」、「行政に対する提案、質問」、「環境教育、市民への普及の方法」などがとくに目立ちました。しかし、そのほとんどは従来から提案されていることで、いまだに多くの人が行動以前の意識欠如の状態にあることが明らかになりました。

11月13日の全体会ワークショップでは上記分科会での提案を整理して、参加者に説明し、意識の向上策について討議することにしました。時間が短く結論を出すまでには至りませんでしたが、対策はより具体的であること、自分たち一人ひとりがすぐ行動すること、そしてその行動でうねりをつくり押し広げていくこと、うねりはやがて行政も動かしていくという意見が主なものでした。なお、このワークショップでは参加者に温室効果ガスの主役であるCO2濃度の実態を直接認識してもらうため、測定器を会場に持ち込んで、室内のCO2濃度をスクリーンに表示しました。さらに、鉢植えのCO2吸収効果やローソクの火から発生する濃度についても実測してみせました。

千葉房総台地 12月鮭物語

高橋 晴雄

この千葉に 鮭が上ってくる町があるとはホントにすばらしい。

鮭遡上の日本における南限地 栗山川の河口から2キロの横芝堰に昨秋魚道が3本完成し 鮭たちは河口をのぼって多古町に、顔を見せはじめまし

た。 おそらく山田町(成田から車で15分ぐらい)にも遡上したと思われます。鮭が安心してのぼり産卵孵化し稚魚になって川を下り大海を巡り再び戻ってくる循環への環境蘇生に向けてその第1歩がはじまると言う意味できわめて画期的です。河

口堰で見た鮭たちの躍動 そのエネルギーに感動 しつつ四街道メダカの会有志は栗山川漁協と桜宮 自然公園の方々の引率で上流支流の常盤川の多古 町南玉造まで足を伸ばしました。

しかし私たちがそこに見た鮭たちは傷つき満身 傷痍の姿でした。産卵地の環境は厳しく、河床のコンクリートの上には朽ちて漂ういくらたちがいま した。連綿と継続した死の生への転換の人為的切断 です。遡上の流域には河口から水源地まで多くの堰 があり、水がにごり 河床がみだれ 心無い人の密 猟も見られました。まだまだ鮭たちが安心して遡上 し産卵する環境とはほど遠い現実がありました...

ともかく長い旅の後やっと九十九里にたどり着いた鮭たちの水源地に向かって遡上をこの目でみることができました。「千葉の内陸部にも鮭が」という情報は今じわじわ伝わり流域の人々に波紋を呼び起こしています。例えば鮭の遡上流域にある地区の区長と水利管理組合の責任者は

「栗山川に鮭が遡上してきているということで 地元常盤地区ではたいへん喜ばしい話題になって おります。私共は昔話で鮭の話は聞いた事がありま したが、昔話でなく今現在、大変なロマンをかんじ て居る所です。しかしながらはにわ地区の堰を登る ことが出来ずに産卵する鮭を見て、魚道を作ってや る事により、鮭の故郷山倉地区に返してやることが 一番だと考えています。

今後 永久に鮭が戻って来る事は、私共にとって大きな誇りと成る事でしょう。

地元住民として、この魚道を考えて頂きたくご提案申し上げます」と。すばらしいアピールを出しています。

ここで言う鮭の故郷 山田町の山倉では12月 第1日曜日 生鮭の奉納がおこなわれました。(写 真参照)

江戸時代に何万の参拝者でにぎわったという山倉 大神では1190年来連綿として生鮭の奉納が行 われてきました。又横芝のはにわ博物館には鮭の埴 輪があるという情報が伝わってきました。

こうして古より鮭が人々をつないできたすばらし





い文化が再び人々の心に蘇り始めました。多古町では鮭が安心して遡上できるように水源地を守る世論が興り産廃の設置に反対の声が上がっています。 栗山川の水源地である 多古町に、しかも自然公園の隣に産廃施設(中間施設)が認可されようとしているということへの危機感が興ってきました。産廃施設予定隣接地の桜宮自然公園(里山)の地権者たちは

ー里山と産廃は絶対両立しないー

ー鮭ののぼれるところに産廃はいらないーと。 周知のように多古町ではおいしい米が生産されています。いまだこの地域には産廃施設が一つもありません。おいしい米はもちろん鮭の遡上、そしてかねてからの夢であるコウノトリややがてはトキ到来 それを可能にする水質。その保全ために森林や里山の環境景観を守ることは ひとり多古町民だけの問題でなく 千葉県全体 つまり私たち自身の問題となります。鮭が安心して遡上した記録を持つこの地域は千葉のほこれる文化景観生活地域です。この目線が心豊かに住みやすい千葉への道です。

できるだけ多くの県民にしらせたい。栗山川流域の 市町村の方々をはじめ多くの県民が知るようにし たいものです。ちなみに試しに聞きました。200 人中一人も知りませんでした。しかしその驚きは新 鮮でした。

できるだけ多くのひとを誘い鮭がのぼるとみせたいモノです。みればあの鮭たちが一生懸命山倉めがけて 無欲に遡上する姿に感動することでしょう。特に生きる力、命のちからを子どもたちに見せてやりたい。大人だって腰がうずうずしてきて 県にこの地に産廃施設を認可しないよう求める一方現地を激励したくなること請け合いだと思うのですが。 私はこの流域にお住まいの方々が神の道として川を大切にしてこられたことに敬意を払います。もう一度蘇らせようと努力される流域の方々を尊敬します。

千葉県初の「環境対話集会」開催される

加藤 賢三

千葉県では、化学物質に関する環境保全行政の施策推進のひとつとして、化学物質に関するリスクコミュニケーションを推進することを目的に、事業所をモデル地域で環境リスクを考える集会が、リスクコミュニケーションモデル事業「環境リスクコミュニケーション in ちば環境対話集会」として、平成18年2月4日に住友化学(株)、千葉工場(市原市姉崎)で開催されました。

この事業は、事業所をモデルに、住民、事業者、 行政が化学物質に関する環境リスクや対策への取り組み状況について情報を共有し、コミュニケーションを図りながら、環境リスクの低減に向けた話し合いを行うもので、今後の化学物質対策の推進手法として、大変重要なものです。リスクコミュニケーションの実施に当たっては、化学物質に関心を持つ周辺住民などの利害関係者の参加が不可欠となります。環境パートナーシップちばでは、この会議に住民の代表者の一員として参加いたしました。さらに、進行役(ファシリテータ)、中立的専門家(化学物質アドバイサー)の参加も必須です。

また、この内容についてもっと知りたい方には、化学物質リスクコミュニケーションセミナーが3月6日(月)、13:30~ぱるるプラザ千葉で行われます。その中で、当日の模様が紹介されます。詳細は、下記をご参照ください。

ちなみに、Q1:化学物質による環境リスクってどんなものでしょうか? A1:化学物質が環境中に排出されることにより、人の健康や生態系に影響を及ぼす可能性のことです。Q2:リスクコミュニケーションってなんですか? A2:化学物質などの環境リスクに関する正確な情報を、行政、事業者、国民、NGOなどの主体が共有しつつ相互に意思疎通を図ることです。

参加しての感想を一言で言えば、「百聞は一見にし かず」、でした。工場を見学させていただき、その 後の意見交換会では、住民がどのようなことを知り たいのかとか、説明責任はとか、事業所は公害防止 にこれだけの努力をされているのか等、知らないこ とばかりで、このような集会が継続して行われるこ とが、市民と事業所の協働のはじめの一歩なのでは と思いました。私たちの毎日の生活はすべて、ある 種のリスクの中で生活しているわけです。たとえば、 BSE,鳥インフルエンザ、環境ホルモン、ダイオ キシン、紫外線、鯉ヘルペス、ノロウイルス、組み 換え植物などのリスクが、共有できる時代になって ほしいと思います。そのために、市民団体にできる ことが沢山あるように思われてきました。その一番 できることとは、環境教育・環境学習の分野ではな いかと思います。

化学物質リスクコミュニケーションセミナー

日時:2006年3月6日 13:30~16:00 場所: ぱるるプラザ千葉ぱ・る・るホール(JR千葉駅徒歩5分)

主催:千葉県 募集者数:700名

(1)基調講演

「化学物質の管理とリスクコミュニケーション」

淑徳大学国際コミュニケーション学部教授 北野大

(2)事例紹介1

「千葉県における PRTR データの特徴、化学物質対策への取り組み状況」 千葉県

(3)事例紹介2

「住友化学株式会社におけるリスクコミュニケーション実施事例」 住友化学株式会社

(4)「円滑なリスクコミュニケーション実施のための手法・留意点について」

株式会社環境青報コミュニケーションズ 大歳幸男

申し込みは 2月22日までに電話または、申込書をFax あるいは郵送してください。

千葉県環境生活部環境政策課

郵送先:〒260-8667 千葉市中央区市場町 1-1 : 043-223-4665 FAX: 043-222-8044

第3回印旛沼再生行動大会 ~いんば沼LOVE ~ 開催!

NPO 委員 桑波田 和子

2月10日(金) 11日(土)の2日間にわたり、 第3回印旛沼再生行動大会が、佐倉市で開催されま した。10日は佐倉市民音楽ホールにて午後1時~5 時前までありました。内容は、1部では、」行政関係者による挨拶から始まり、佐倉市臼井西中学校吹奏楽部によるかわいらしく愛嬌のあるコンサート、特

別講演として 赤星たみこ氏の「楽しく実演!エコ ライフ~印旛沼をきれいにする暮らし~」でした。 赤星氏は、漫画家として不規則な生活がエコライフ のきっかけとなり、お姑さんの強制しないアドバイ ス等から続けられたと話されました。ステージでは 換気扇掃除をご主人が実演し、たみこ氏が解説され ました。また、わずかな水で掃除ができるなど、会 場の中を回ってくださり見たり触ったりと体験あ りの講演会でした。

第2部は成田市公津小学校児童による「緊急行動計 画(みためし学び系)」環境学習の成果発表があり ました。次に韓国ドリム川のおける市民の取り組み を Yu. JungHee さんが報告されました。

最後は、「印旛沼わいわい会議の開催報告」でした。 今回の in やちまた、in やちよでの流域の特徴を先 ず解説し、NPO 委員が分科会の報告をしました。印 旛沼をきれいにするために、生活系、里山保全(ホ タル)、川作り、農業、ゴミなどの分科会からのま とめを聞くことで、より強調される部分、独自で活 動していく部分など改めて感じることができまし た。また、流域での違いや共通点などを知る機会に なりました。ただ残念なことは、始まりにはあれほ ど埋まっていた座席に空席が見られたことです。 11 日はお天気に恵まれ、「印旛沼流域環境フェアー」 を 11 時~3 時 30 分まで、御伊勢公園で開催されま

した。活動団体による「印旛沼流域パネル展」「印 旛沼流域農産物即売会」「農産物試食会」「印旛沼フ リーマーケット」「流域コンサート」など地域の方、 子どもたちなど、たくさんの方で最後まで賑わいま した。フリートーキングでは、ステージとパネル展 示参加団体とのマイクのリレー中継で、日頃の印旛 沼浄化の活動をお互いに知ることが出来、今年のテ ーマである「いんば沼 LOVE 」への熱い思いが伝わ ってきました。大いに盛り上がった場面でした。 2日間しっかりと関わらせていただきましたが、印 旛沼再生に向けまた新たに動き出していきたいと 思いました。



宇宙からみた関東の水環境と未来

日程:2006年1月25日(水) 会場:船橋女性センターにて

講師:日本大学生産工学部 助教授 岩下 佳之 先生

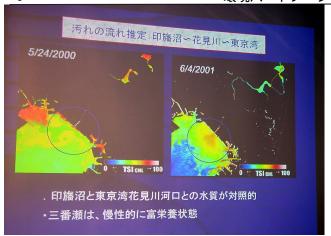
昨年10月1日の環境シンポジウム千葉会議の第5 分科会(環境分科会)で発表された研究発表とほぼ 同じと思われたが、タイトルの後半が微妙に変わっ ていた。シンポジウムでは「千葉県北西部の水環境」 となっていた部分が、今回は「関東の水環境と世界」 に変わっていた。従って話の内容も幅がひろくなり、 エコサロンということもあり気軽な雰囲気のなか で研究のお話を聞き、質問もできた。

リモートセンシングという技術は、宇宙衛星を使 って物を直接触らずに調べるという軍事目的で開 発された技術であるが、近年は衛星からの画像で植 物の分布、森林伐採、砂漠化、農作物(水田)の状況 など地球上の多様な状況を調べることができるよ うになった。

今回の岩下先生のお話は、宇宙衛星ランドサット からおくられてくる画像で関東平野の水について 調べた研究発表であった。地球から数百キロも離れ た宇宙か ら撮影さ れた画像 をコンピ ューター



で解析し、河川や湖沼、海の汚染状況を調べるとい う新しい研究分野の発表であった。クロロフィル、 リン、透明度に焦点を当てて関東の河川、湖沼、海、 とりわけ印旛沼からの放流と東京湾の状況につい て関連付けた研究の話であった。印旛沼の水は定期 的に花見川から東京湾に放流される。放水直前の印 旛沼の画像は赤い部分が多くアオコベースの巣富 栄養化状態を示しているが、放流から 72 時間後の 画像は、緑色となり富栄養化が軽減されたことを示 している。一方花見川の河口付近の海水は、放流直 前は緑色であったのが、放流から 72 時間後には河 口から東京湾に向かって扇状に赤く変わっている



のが画像に鮮明に現れている。これは、印旛沼の水は、放流によりきれいになるのにたいして、受け入れ側の東京湾の水が汚染されている事を示しているといえる。1ヶ月に1回あるいは数ヶ月1回、機場のポンプを動かして花見川から放流するのではなく、日常的に少量の水を印沼から東京湾に放流した方が、受け入れ側の東京湾の水環境に与える負荷は少なくなるのではないかというのが、今回の岩下先生の提言であった。(文・植木隆典)

自然再生は、

渡り鳥の復活から始まる!

~最近の環境市民活動の紹介とGISの活用~

講師: 荒尾 稔氏(株式会社トータルメディア研究所 代表取締役)



関全を現るがというのででが結、田にての別にのでの事れたのとでの事れたのというのでの事れたののでの事れたののでの事れたののでがは、田にての別に

耕起してしまう習慣が定着しています。乾田化と秋の耕起によって、雁・鴨・白鳥等にとって、関東地方には、まともな餌場がない状況のように感じられます。

ところが、今年の東北地方の大雪の結果、この冬の、千葉県下での白鳥群の渡来は、かってない流れとなっています。本日現在で、本埜村周辺域に1,326羽、九十九里の新しいネグラをも加えると1,500羽ほどとなります。

本埜村の個体群も順調に増えています。複利計算で増える状況で、ネズミ算の適用段階に至ってきました。これからどんどん増えて、4~5 年で 2,500 羽を軽く超すことになるでしょう。

http://blog.goo.ne.jp/tmlarao/c/290c87fdf0f8cec4bbc7b1525777309d

現在、ふゆ・みず・たんぼを中心とした新しい農 法の普及が各地で着実に始まりつつあります。その 過程で、特にふゆ・みず・たんぼでの生き物の実態 を解明する事を目的とした「田んぼの生き物調査」 は、極めて重要な事実調査の方法として、その解明 と新たな技術分野のフロンティアとして、注目され つつあります。

生き物調査用データベースの基本パッケージ(略称:生物 DB)が「伸萌地区田んぽの生き物調査」用として使われ始めました。生き物調査用データベースの基本パッケージとして、 「生き物調査用データベース(生き物 DB)」は生物の多様な情報を、情報蓄積・収集・分析・出力する仕組みとして開発されています。その「生き物調査」に必要な要素技術を集大成し、特に WEB 版の地図情報 (WEBGIS)を主体にしています。

日本雁を保護する会では、利根川流域への越冬地形成のため湿地の再生を目指しています。

印旛沼周辺域での、自然再生でのあり方~湖沼復元 100年計画~

100年かけて,かつて湖沼や湿地環境の改善・復元をめざす。

耕作放棄水田は集約し湿地復元をめざす。

休耕水田は通年湛水を行い,湿地として管理する。 耕作水田の内,水持ちが良い水田は冬水田んぼとして,冬期間湛水して管理する。

かつて湖沼湿地だったところでの取り組みに対し, 優先的支援を行う仕組みを作る。

千葉県では、残念ながら、渡来する雁・鴨・白鳥の 保護策として、銃猟禁止地域の拡大、空中散布廃止 等、の運動からスタートする時期に来ています。 (文責・広報部)

総務部より 12 月運営委員会報告

日時: 平成17年12月27日(火) 場所: 浦安市民活動センター

.報告

・16年度環境再生基金会計報告について

・17 年度ベイエフエム基金会計報告について

- ・18 年度ベイエフエム基金(25 万円)決定
- ・ 千葉市桜木公民館環境教育講座 (千葉市より環パちばへ依頼)

協議事項

- (1) 環境パートナーシップエコサロンについて
- (2)「だより」47号編集について
- (3) 印旛沼流域フォーラムについて
- (4) 18 年度の予算申請等について
 - ・18年度環境再生基金応募(12月28日申請締め 切り)・・・印旛沼流域活動)への助成金申請
 - ・印旛沼環境基金、環境教育についての補助 金など必要があれば今後も検討申請予定。
- (5)総会に向けての素案の作成
 - ・18 年度の環パの活動方針は、印旛沼流域関 係、環境学習を中心とした活動とする。
- (6) 環パちば創立 10周年記念事業の素案の作
 - ・環境パートナーシップ 10 周年記念事業準備 委員会を発足する。
- (7) 東京電力「Switch! station 浦安」での環境 活動について
- (8) その他・18年2月25日 松戸市民活動セ ンター祭りに環パちばとしてパネル参加予 定

・ 印旛沼環境基金報告会が18年1月25日(火) 志津コミュニティセンターにて開催。

1月運営委員会報告

日時: 平成18年1月25日(水) 船橋市女性センター

報告

- •17年度(財)印旛沼環境基金助成事業成果報告会開
- ・千葉市桜木公民館環境教育講座打合せ
- ・第3回印旛沼再生行動大会開催 2月10日(金) (大会)、 11日(土)(印旛沼流域フェアー) .協議事項
- (1)環境パートナーシップエコサロンについて。
- (2)「だより」47号編集について
- (3) 印旛沼流域フォーラムについて(案内掲載)
- (4)総会に向けての素案の作成
- (5)環パちば創立10周年記念事業について
- (6) 次回パートナーシップエコサロン(3 月中旬以 降予定)について

「リスクコミュニケーションについて」

第2回印旛沼流域フォーラム

日時:2月19日(日) 午後1時~4時30分 場所:志津コミュニティセンター 大会議室

主催:環境パートナーシップちば お申し込み:桑波田 Tel&Fax:043-258-5437

E-mail: kuwahatak@hotmail.com

学習会

浄化槽について

藤村 葉子氏 (千葉県環境研究センター)

・八千代市の下水道・合併浄化槽の整備状況について 関 和則氏 (八千代市環境保全課)

話題提供

・「印旛沼をきれいにする活動」

環境パートナーシップちば

・地域での取り組み(水調べ)

西川氏(鎌ヶ谷市)

・大学の取組み(エコウオーキング)

冨田 真貴子さん(千葉工大) 山﨑 衡良 氏

・エコマインド生の取組み

湯下健一 氏(千葉県 NPO 推進課)

・協働での取り組み 意見交換会

「印旛沼をきれいにするために、いま何が問題か、それをどう解決するのか、

個人で出来ること、団体で出来ること、協働で出来ること。」

コーデーネーター 本橋 敬之助氏 (印旛沼環境基金)

地球温暖化防止シンポジウム&千葉県環境研究センター公開講座(第10回)

地球温暖化防止について

演:地球温暖化のメカニズムから見た防止対策 講

> 講 師:山地 賢治 東京大学大学院工学系研究課教授

県からの報告 : 千葉県地球温暖化防止計画案の概要

> 報告者:渡辺 清一 千葉県環境生活部環境政策課副参事兼政策室長

活動事例の報告:地域における地球温暖化防止活動の実際

報告者:土田 茂通 アースコン・マッド代表

開催日時: 平成18年2月25日(土) 13:30~16:30

会 場: 千葉市文化センター(千葉市中央区中央2-5-1) 募集人数:100名(申込先着順)

申 込 方 法: 電話、FAX、メールでお申し込みください。 参 加 費:無料

申 込 先: 環境研究センター 企画情報室 電話 0436-24-5309 FAX 0436-23-3598

Email kankyoken@ma.pref.chiba.jp ホームページ: http://www.wit.pref.chiba.jp/

お知らせコーナー

エコサロン

日時:2005年 3月 29 日(水)18:30~20:30

テーマ:「知ろう環境リスク」

講師: 交渉中

場所: 船橋市女性センター 研修室 申し込み問い合わせ:中岡丈恵

Fax 0 4 7 - 3 8 5 - 8 9 5 0 e-mail naka.hta@trust.ocn.ne.jp

第3回選べる!! 見て聞いて NPO・市民活動見本市 ~「自分探しの見本市」~

日時: 平成18年2月25日(土)10:00~16:00

会場: まつど市民活動サポートセンター

主催 第3回NPO·市民活動見本市実行委員会

まつど市民活動サポートセンター

* 入場無料(一部の企画は有料)

講演会「私が変われば未来が変わる」

講師: 田中優氏(ap bank 幹事、未来バンク代表)

定員: 先着150名

問い合わせ∶まつど市民活動サポートセンター

松戸市上矢切 299 - 1 :047(368)1814

Mail: hai saposen@matsudo-sc.com

広報部より

- 1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せくださ
- 2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメール アドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP: http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

講演会「不思議な発光生物の世界」

発光する生物はバクテリア、プランクトン、軟体動物、甲 殻類、魚類、キノコ、昆虫類など多様です。これらの生き 物はどのように発光するのでしょうか、またその目的は何 でしょうか。

演者が、33 年以上発光生物、特にホタルの発光行動や 生態を研究するなかで浮かび上がってきた最新の成果を 様々なエピソードを含めてスライドで紹介し、発光生物の 不思議にせまります。

日 時 2月25日(土) 14:00~16:00 場 所 横須賀市自然·人文博物館講座室

講師 大場信義氏 (学芸員) 主催 横須賀市自然·人文博物館 横須賀市深田台 95

046-824-3688 Fax 046-824-3658

三番瀬自然環境調査にご参加ください

千葉県では三番瀬再生事業の一環として,市民と 合同の自然環境調査を実施しています。17年度は 底生生物(アサリ,ゴカイ,など)をテーマとして,10月 の調査に続いて3月にもう一度調査を行います。

事前勉強会:2月19日(日) 現地調査:3月19日(日)

ソーティング*:3月25日(土)

現地で採取した試料(小石や貝殻を含んでいる) の中から生物を選り分ける作業。

現在,新規参加者を20名募集しています。

申し込みの締め切りは2月6日ですが,それ以降のお申し込みは環境政策課(TEL 043-223-4135)に直接お問い合わせください。18 年度の参加者も募集中です。

http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_kansei/sanbanse/bosyu/17-2.pdf

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先:千葉県環境財団 環境技術部

環境活動推進チーム気付 846,8488 - 547,848,846,86

TEL: 043-246-2180 FAX: 043-246-6969 会費納入先:環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団 環境技術部 環境活動推進チーム気付

< 環境パートナーシップちば > 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として) 会費を添えて入会します

氏名	入会	年月日
住所	Ŧ	·
TEL	FA	X
年会費	個人 1,000 円 団体 2,000	円 賛助会員 5,000 円